

香川県総合防除実践指標（アスパラガス）

No.	予防	判断	防除	実践項目 対象病虫害・雑草	実践ポイント	点数	チェック欄	
							実施 目標	実施 状況
1	○			本圃周辺の管理	ネギアザミウマ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類の侵入防止のため、周辺雑草を除去する。	1		
2			○	雑草対策	機械除草など化学農薬によらない雑草管理対策を実施する。	1		
3		○		病虫害発生予察情報の確認	病虫害防除所が発表する発生予察情報を入手し、確認する。	1		
4		○	○	防除要否の判断	ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類は圃場間差、年次変動が大きいので発生状況を確認し、防除を行う。（確認して防除要否を判断した病虫害の数に応じて1点～5点）	1～5		
5	○			ネギアザミウマ対策	施設外縁に幅約1～1.5mの光反射シートを敷設する。	1		
6		○	○		圃場内の数か所で成茎の擬葉が繁茂しているところを手で払って、10×20cm程の板上に1か所当たり1～5頭の成虫を認めたら防除する。	1		
7		○	○	ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ共通対策	フェロモントラップを設置して発生状況を把握し、適期防除を行う。	1		
8			○		生物農薬を使用する。	1		
9			○		卵塊、幼虫集団を摘除する。	1		
10	○				黄色蛍光灯を設置し、成虫の飛来・産卵を防ぐ。	1		
11	○			ネギアザミウマ、アブラムシ類、コナジラミ類、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、タバコガ類共通対策	ハウス開口部を防虫ネットで被覆し、成虫の飛来・産卵を防ぐ。 0.2～0.4mm目合い（ネギアザミウマ、アブラムシ類、コナジラミ類、ハスモンヨトウ、タバコガ類に有効）で被覆すれば4点 0.8mm目合い（ネギアザミウマ、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、タバコガ類に有効）で被覆すれば3点 1mm目合い（アブラムシ類、ハスモンヨトウ、タバコガ類に有効）で被覆すれば2点 4mm目合い（ハスモンヨトウ、タバコガ類に有効）で被覆すれば1点 0.4mm目合い以下のネットで被覆する際に、高温対策として遮光資材を利用すれば1点。	1～5		
12	○			ネギアザミウマ、斑点病共通対策	施設栽培では紫外線除去フィルムをで被覆する。	1		
13	○			茎枯病対策	雨よけを行う。	1		
14	○		○		刈り取り後の畝上面を火炎処理する。	1		
15	○		○		残茎、残渣はかき集めて圃場外で適正に処分する。	1		
16			○	褐斑病対策	立茎開始10日後から定期的に防除する。	1		
17	○			茎枯病、褐斑病、斑点病、灰色かび病共通対策	過繁茂・過湿にならないよう、茎葉の刈り込みを行う。	1		
18	○				適切な時期に表面を開放する。	1		
19	○			茎枯病、褐斑病、斑点病、灰色かび病、立枯病、株腐病共通対策	圃場の排水を良くする。	1		
20	○		○		発病株、病茎葉は圃場外に持ち出して処分する。	1		
21		○	○	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1		
22		○	○		当該病虫害・雑草に効果のある複数の農薬がある場合には、環境に影響の少ない剤を選択する。	1		
23		○	○		適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1		
24		○	○		病虫害の発生生態を充分認識した上、発生部位に農薬がかかるよう散布する	1		
25		○	○		作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域の病虫害において強い薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しない。	1		
26		○		作業日誌（重）	病虫害・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1		
（重）栽培管理状況について記録することは重要な実践ポイント。					34点、26ポイント	合計点数		
						合計実践ポイント数		
						評価結果		